

平成 30 年度 第 2 回 環境基本計画評価検討部会
会議録

日時 平成 31 年 1 月 31 日（木） 午後 13 時 30 分～15 時 00 分
場所 職員会館かもがわ 第一会議室
出席者 小幡部会長，板倉委員，窪田委員，大久保委員，小山委員
欠席者 綾野委員，中野委員

内容

1 開会

- ・村中環境企画部長 挨拶

2 議題

(1) 2020 年度の環境分野の計画の改定について

窪田委員

- ・個別計画の計画期間はどうか。

事務局

- ・京都市基本構想の年限が 2025 年度であり，京都市基本計画もそれに合わせて 2025 年度までの計画期間とする予定であることから，基本的には，局内の計画も 5 年計画とする予定であるが，国の計画との整合から 10 年計画となるものもある。

大久保委員

- ・京都市基本計画が 2025 年に改定するのであれば，それとの整合をとった方が良い。京都市基本計画の改定スケジュールはどうであるか。

事務局

- ・スケジュールはまだはっきりと示されていないが，局内の計画改定は，京都市基本計画の動きに合わせていきたいと考えている。京都市基本計画は来年度を目途に骨子案をまとめる予定であるため，局内の各個別計画についても来年度に骨子案を作れるようにしたい。

大久保委員

- ・京都基本計画に環境分野の計画改定の内容を横断的に反映してもらえよう，大きなビジョンは早めに伝えておいた方が良くと思う。

事務局

- ・環境分野のビジョンは，環境政策局で検討していくことになるかと思うので，部会で

も御意見をいただきながら検討していきたい。

小幡部会長

- ・ 環境分野の個別計画の改定された目標については、環境基本計画にも反映されるという形になるのか。

事務局

- ・ 環境基本計画は、個別計画の上位計画の位置づけではあるが、実際は個別計画で決められたことを吸い上げることになる。

大久保委員

- ・ 環境基本計画は、分野横断的な取組や市民協働等の基盤的な部分を位置づけておくことに意味がある。
- ・ 環境基本計画は SDGs を使って体系を整理しているところもある。

小幡部会長

- ・ 京都市基本計画は SDGs の視点を反映する方針なのか。また、改定のスケジュールは分かっているのか。

事務局

- ・ SDGs の視点を取り入れる方向ではあるが、どのように取り入れるのかは現段階で明確に定まっていない。スケジュールも未定である。

小幡部会長

- ・ 議事 1 について計画の統合の方向性は提案のとおりでよろしいか。

一同

- ・ 異議なし。

(2) 環境基本計画中間見直しについて (案)

大久保委員

- ・ 札幌市の SDGs の反映方法が一番簡単であるが、各施策と SDGs との関連を認識してもらいに留まると思う。参考とすべき自治体は京都市が何をしたいかによる。環境基本計画の進捗を点検していく中で課題や重点化したいものがあれば、例えば「歩くまち京都」の取組など、環境と福祉の組み合わせとなる施策を SDGs の取組として京都市基本計画で打ち出すことで、環境基本計画としても原動力になる。

- ・別紙 3 では目標 1 の「貧困をなくそう」が抜けているが、子ども食堂の取組が該当するのではないか。このような形で対応させるなら全ての目標が入っていた方が良いと思う。
- ・目標 17 はグローバルパートナーシップが基本であり、環境に関する情報の発信や参加・協働のことであれば、地域のガバナンスという意味で、目標 16 に位置づけるのが妥当である。
- ・滋賀の整理の方法は面白いと思う。外向けに SDGs を見せるというのではなく、SDGs の考え方を踏まえて実質的に何をしていくのかということであれば独自性があると思う。滋賀と同じように、実質的な部分で SDGs とどのように関わっているか、京都市的なところをきちっと打ち出したうえで、啓発の意味で各施策に SDGs のマークを付けるという方が京都の場合は良いのではないか。

小山委員

- ・全ての目標を入れた方が良いということであったが、目標 5 の「ジェンダー平等を実現しよう」を環境分野の計画で入れるのは難しいのではないか。

大久保委員

- ・環境の取組であっても、例えばタウンミーティングなどで子どもを預かる場所等を設置することで女性が参加できるようになるなどの工夫ができる。

小山委員

- ・別紙 3 は現行の環境基本計画と SDGs の関係が整理するものなのか、それとも計画の見直し後の関係を整理するものなのか。

小幡部会長

- ・施策体系は大きく変えないということなので、現行の計画で考えれば良いと思う。
- ・京都市基本計画ではどのように対応させる予定なのか。

事務局

- ・京都市基本計画がどのように SDGs を位置づけるのかは、まだ具体的に定まっていない。

大久保委員

- ・今回の計画の見直しで京都市として変えたいところはあるのか。見直しにあたってのメリハリはあるか。

小幡部会長

- ・札幌市の計画のように各施策と SDGs の関係を表にすることはできるか。

事務局

- ・ 別紙 3 を基本に、札幌と同じように表にすることはできると思う。

小幡部会長

- ・ では、そうした上で重点がどこか議論することができるのでは。

事務局

- ・ 京都市基本計画で打ち出される課題や、個別計画から上がってくる課題などもあると思う。例えば地球温暖化対策では適応策が今後の課題となるし、ごみではプラごみの課題がでると思うが、部会でも今後何を柱としていくのかは未定のところもある。

板倉委員

- ・ 生物多様性プランでは、SDGs の目標 14（海洋資源）、目標 15（陸上資源）を結び付けていくのか、ということころである。
- ・ 大学でも SDGs の取組が始まっているが、これをどこまで重く位置づけるべきなのかと思う。SDGs の達成に向けた取組はこれまでも行ってきたところで、なぜ今更盛り上がっているのかという印象はある。逆にこの流れを利用していくのも良いと思うが。

窪田委員

- ・ 産業界では一部の大企業では取り組んでいるが、今後、中小企業にどう広げていくかが課題である。
- ・ 先ほどもおっしゃられていたように、SDGs をどこまで重く位置づけるのかは議論が必要である。
- ・ 環境基本計画においても、全てのゴールに関連づけられれば良いが、難しい部分もあるように思う。むしろ主体的に関われる分野と、支援する役割をもつ分野との重み付けが大事なのではないか。市全体としてはすべてやることになると思うが、環境でも全部やるとなると総花的になるのではないか。

小幡部会長

- ・ 滋賀県の計画では、SDGs という言葉は出ているものの、個々の施策との関連までは記載しておらず、基本的な考え方でしか触れていない。SDGs の精神をどう活かすかが大事であって、SDGs を踏まえて何を重点的に取り組むのかを定めたうえで、参考として各施策と SDGs の関係を見ていくことが重要と思う。

大久保委員

- ・ 地方自治体が環境基本計画に SDGs を入れようとしているのは、国の環境基本計画に全面的に打ち出されたことが大きい。
- ・ SDGs を使用することで、市が進捗を点検する上で、何が問題で進まなかったのかを

チェックする際、SDGs との関連性を示して、関係部署を引きこむことができる。

- ・ 大学では財政ガバナンスに SDGs を使用していることがある。

小幡部会長

- ・ 本気で SDGs の考え方を取り入れようと思えば、計画の根本をひっくり返すような議論にもなる。今回は大きな構成は変えないということである。
- ・ 京都市における環境分野の課題は何か。

大久保委員

- ・ 進捗を点検した結果、市としては何が課題となっているのかが示さなければ、今後どのように改善していくべきかが議論できない。

小幡部会長

- ・ 現在の課題を明確にして進めていければ良いと思う。例えば温暖化対策や再エネなど課題があるのでは。

事務局

- ・ ごみ減量については、目標の達成が見えてきているところであるが、温室効果ガス等の地球温暖化対策については目標の達成が厳しい状況にある。生物多様性の保全に関しては、まだこれからという段階である。

板倉委員

- ・ 生物多様性については、昔と違って市の取組が活発になったと思う。
- ・ 小学校の先生が自然観察会を開催するなど、学校でも積極的にやっていただいていると思う。

小幡部会長

- ・ 地球温暖化対策の身近な取組として、エコ学区の取組はどうか。

事務局

- ・ エコ学区については全学区で取り組んでいただいているところであるが、それによってどのような成果があるのか、というのは示しにくい部分である。

小幡部会長

- ・ 京都では観光客による環境への影響もあるのではないかと。

事務局

- ・ インバウンドによるごみの影響については調査を進めようとしているところである。エネルギー消費量についても影響はあると考えるが、把握が難しい。

小幡部会長

- ・ 温室効果ガス排出量の目標値は変えるのか。

事務局

- ・ 今後検討していくところである。

小山委員

- ・ 地球温暖化にしても SDGs にしても、地球規模の目標となると大きすぎて、一自治体がそれを達成することに意味があるのかと市民は感じるのではないかと。市民が取り組むことによって、効果が実感できるようなものになれば良いと思う。

大久保委員

- ・ 今だと FIT の買取期間が終了するので今後どうするのか、という施策が必要となってくるのではないかと。エネルギーの自給率 100%を掲げる自治体もある。エネルギーについて、輸入・輸出の考え方で捉え、地域内での再エネの取組を進めることで黒字化しようといった動きもある。何に着目することで取組を身近にしていくか、ということだと思う。
- ・ SDGs の目標については、基本的に全て統合的に達成すべきものであり、バラバラに捉えるべきではない。縦割りで見ることがないようにしてほしい。重点的な施策がどの目標と関わっているものであるという表現の方が良い。

小幡部会長

- ・ 計画の点検によって見えてきた課題や今後重点的に取り組むべきことについて整理したうえで、次回以降、計画の改定内容を検討していくということをお願いしたい。

事務局

- ・ 長期的目標 4 の環境教育・学習や協働取組に関する指標について御意見はないか。

大久保委員

- ・ この分野については、全国的に見ても「〇〇に参加した数」といった指標になっていることが多い。豊中市では代表指標から外して、意見交換会を行い、定性的な評価にすることに変えたところである。
- ・ KES 認証保有件数は、達成できないからやめるというのではなく、数年で更新するしくみでもあるし、実態に応じて見直してはどうか。

窪田委員

- ・ KES については、大企業などでは ISO への移行といった良い意味での変化もあるが、費用対効果が得られにくくやめてしまうところもある。本施策の進捗について、KES だけで評価するのも無理があると思う。参考指標にはなると思うが。

大久保委員

- ・ KES 認証と ISO14001 の認証数を足したもので評価してはどうか。

小幡部会長

- ・ ISO14001 の認証件数が市レベルでわかるのか確認いただきたい。

小山委員

- ・ 基本施策 3 の指標として、市内で生産された木材や農産物における市内消費量（割合）を把握しているのであれば、地産地消の評価に使用することはできないか。

大久保委員

- ・ フードマイレージに取り組んでいる自治体では把握していることもある。

小幡部会長

- ・ 農政課などで確認していただきたい。

大久保委員

- ・ 地域木材活用について京都市の条例等でルールがあったように思う。
- ・ 縦割りで取り組む弊害にも気をつける必要がある。例えば、中国で PM2.5 の規制を強化したことで、光化学オキシダントの濃度が悪化しているということがある。PM2.5 と VOC 対策は本来、並行してバランス良くやらないといけないものである。環境本計画では、こうした矛盾が起きないようにするのが重要だと思う。

(3) その他

- ・ 今後のスケジュールについて事務局より説明。

以上